第三回謝恩大興行
二十日より替り
△日活會社連續大映畫
原作……村上浪六
監督……辻吉郎
元録遺聞
妙法院勘八 後篇
◆河部五郎、尾上多見太郎
櫻木梅子、嵐玕松郎
△血涙悲壯明治建國史
日活オールスターキャスト
尊王攘夷 廿巻
△總指揮……池永浩久
△原作……池田富保
◆山本嘉一、大河内傳次郎
尾上多見太郎、酒井米子、
黒船だ……神奈川の住民は
膽を冷した……米軍艦より
威嚇の空砲一發……
土曜學生デー
普通席……金十錢
平館

梅毒 淋病
皮膚病 專門 婦人病
平南町 松村病院 電話一〇七

健胃 固腸 ビスミット散
小野常治謹製

荷入服學中上極
一年生位 四圓五十錢
二年生位 四圓八十錢
三年生位 五圓十錢
平二 なかや洋服店 電二〇三

内臓外科
骨關節外科
整形外科
産婦人科
專門 藤本順
院長 木村寅次郎
平町新川町
外科
産婦人科
木村醫院
電話一六四番

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舗
平町二丁目(電三)

内科、小兒科、花柳病科
藤沼醫院
入院應需
平町紺屋町
電話平五〇七番

贈答品 賣出
正月用品
御屠蘇道具
七五三引物
種々取揃へてあります
粗景品を差上ます
是非御越し下さい……
平町二丁目
和 和久井屋
電話四〇五番

外科
專門 光線科 ×
上田外科醫院
入院應需
平町南町
電話一二九番

永久不變
美術引伸
寫眞專門
――獨逸最新式高級機械設備――
平町三丁目
齋藤寫眞館
(電話呼三五九番)

新築移轉
耳鼻咽喉科專門
氣管食道科
大和田醫院
平町南町(舊診療所向)電話一七〇番

切斷の苦しみなく……
ゆびはれ、やけど、淋病
梅毒、きりきず、乳はれ
くさ、りうまちす
其他化膿するもの一切
靈藥ムテキ
發賣元 阿康藥店
縣社下古鍛冶町(電話四四番)
スグキク――風、頭痛 神經痛 ラヒト 有偽物 要注意
効力本位
丹波博士創製
セキトメ たんばあめ、うまくてセキがヨクトマル

預金賣買を致します
公債株式賣買
勸業債券高價買入
鈴木彌米商店
平町大町

常磐毎日新聞

定價 一部金貳錢 一ヶ月卅錢 郵税五厘
廣告料 五號十二字詰一行五十錢
休刊日 日曜大祭祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇番

十二月二十一日夕刊

日刊
發行兼編輯人 印刷人 川崎文治
本社ト同番地
印刷所 常磐毎日印刷所(電話六三〇番)

御大禮記念セイコー抽籤特賣
賞品總額拾壹萬參千圓(債券)
賞品
一等 壹百圓 同 五十本
二等 五十圓 同 百本
三等 十圓 同 二百本
四等 五圓 同 五百本
五等 セイコー製優美置時計壹個
――一本も空籤なし――
國民の擧つて奉祝する御大禮につきまして。此の曠古の御盛儀を記念するために國産セイコー腕時計の抽籤特賣を發表致します。永く保存が出來御使用に便利な絶好の記念品として御薦め致します。
特約店 大谷時計病院
平町二丁目(電話一九番)

平町紺屋町
吉田眼科醫院

關内藥房
電話四〇番

◆可愛お孃様のすきな……
カワイラシイ少女羽子板
キネマ女優や
昭和童謠入りの羽子板
破魔弓 羽子板
種々陳列しました
是非御用命を……
平町四丁目
スガノヤ 提灯店
電話七一二番

四十萬を突破する年賀狀の大海
愈よ廿日から開始された 平局の特別取扱

平郵便局における年賀狀の特別取扱ひは昨二十日から開始されたが同日正午頃までの受付數は僅に五百通位に過ぎず各方面の差出しが殺到して眞に多忙を極むる様になるのはどうしても二十四五日頃となる見込で局ではこの

前後に おいて現在普通郵便の取扱ひに從事してゐる八名の外保險或は年金等に從事してゐる他係の應援を受け尚局員志望者その他から十五六名の臨時事務員を雇入れ總勢四十二三名の多人數を以てハカキ書狀等年賀郵便の海嘯に備へる事になつてゐる而してその數に至つてはこれを

今正月 の實績に徴すに總數廿四萬四十三通を過ぐる諒闇あけ第一次の新年だけにどえらい數字を示してゐるが來年は更に御大禮の第一新年で御代を壽ぐ國民の赤誠から今年正月に比べて増加する事蓋し既定の事實と見られてゐる尚ほ

各方面 から到着し元旦のスタンプを押捺し平局から配達された賀狀の數は十五萬六千三百八十五通の多きに上り前記の三十五萬と合算する時は實に四十萬を突破する凄じさである

小名濱修築費 六十三萬圓
六ケ年繼續事業 愈々豫算に計上

各省別豫算中内務省所管關係の分左の如し

小名濱港

經常部	臨時部	計
—	六三〇、〇〇〇	六三〇、〇〇〇

備考（總額三、八八〇、〇〇〇にして昭和四年度以降六ケ年繼續事業）

湯本町の 上申書提出
地下採掘の行政訴訟

湯本町地下採掘の行政訴訟に原告の吉本氏が東京行政裁判所長に上申書を提出したのを知つて湯本町が提出せんとする上申書並に懇願書は町民八百餘名の賛成調印を得たので今回東京行政裁判所長に提出した尚判決言渡しは來春一月中旬の豫定だつたが二月下旬か三月上旬に延期となつた模様である因に湯本町から提出した上申書の内容は次の如し

原告の吉本氏は今回徴々たる某新聞記事を參考に上申書を提出したと聞き及んだが某新聞社の幹部と原告は親友關係から原告擁護の立場で掲載したので參考とするに足りない、石城郡磐崎村大字藤原に起つた墓地山林の陥没事件の原因を自然の地すべりとして公表されたが當町の調査する所によると炭坑流水のためでこの點は三井炭坑會社も暗に認めて居る右の例に徴しても原告に地下を採掘されゝば湯本町の陥没は到底免れないものであるからこの點を十分御考慮下され明快なる御判決を希ふ

縣南木炭組合

縣南木炭同業組合では廿六日午前十時から元郡會議事堂に評議員會を招集、昭和四年度の豫算編成の審議を行ふ事になつた

本年鰹漁業の 最高漁獲は江名
これで優勝旗は三度目 第二位は四ツ倉に内定

本縣では漁業の大宗である鰹漁業に對し斯業奬勵の方法として毎年各濱における漁獲高最高船に對し縣水産會の名により船主に優勝旗一旒、船長には優美な置時計を添へてこれを表彰し乘組船員に對しては

酒肴料 をそれ〴〵授與してその勞をねぎらふてゐるが今夏におけるその第一漁獲船については目下縣水産課において遺憾なく細密に調査中にあるも大体において石城郡江名濱と内定した同濱は昨二年度が豊間にうばはれたゞけで十四年及十五年の二年續いて

第一を 占め榮譽ある優勝旗を灣頭に飜したので本年は三度目の優勝として如何に同濱が斯業に熱心なるかを雄辯に物語りつゝあるしかして第二位は四倉とこれ又内定してゐる

本社長 嚴父の盛儀
昨日性源寺にて

本社長川崎文治氏嚴父川崎金作翁は本年夏頃から病臥中の處十九日午前九時五分近親に見まもられて八十一歳の生涯を終へ不歸の客となつた葬儀は昨廿日午後二時自宅出棺性源寺に於て執行、宍戸導師の讀經裡に町會議員佐々木龍若氏は本社長の友人總代として棺前に弔辭を述べ次いで在平日刊新聞記者有志總代半谷政喜氏の弔辭及び金成通氏其他よりの弔電披露あり一同燒香後閉式埋葬したが左記の諸氏より弔旗、放鳥、花輪の寄贈あり會葬者多數にて頗る盛儀を呈した

磐城新聞社、長橋青年分團、綠川松太郎、鈴木實、高木喬、門傳淸吾、平消防組、阿部政右衛門、山崎合名會社、平町青年團同盟會、志賀盛榮、小野長吉、木澤常松、阿部包次、吉田忠之助、國井源喜知、馬目武之助、多田井笑次郎、いはらき新聞社、高橋龜松、俠政會本部、高倉精一、磐城時報社佐藤作平、常磐盟友會長橋青年分團幹部有志、

事業主と坑夫 金策に奔走
川瀬炭礦

經營困難に陷つた石城郡川瀬炭坑の坑夫と家族四百餘名は饑ねと寒さに泣いてをつたが事業主川瀬氏が自分はもちろん家族の衣類から家財道具まで賣り拂つて金策に苦闘して居るのを見て坑夫の有志は死物狂ひになつて奔走した結果川瀬氏と坑夫有志六十七名が連帶責任となり今後採掘した石炭を納入する契約のもとに小口組製糸會社から三萬圓を借受けて家族を救濟することになつた

謹告

川崎本社長嚴父川崎金作翁十九日午前九時五分逝去の爲め同日及び廿日の兩日取込み中にて休刊の已むなきに至り候が本日より漸く社務舊に復し候間此段御詫旁々謹告候也

昭和三年十一月廿一日

常磐毎日新聞社

書入れの年末年始に 宴會の數が減る
吹き荒ぶ不景氣風に、平町邊の料理屋悲觀

師走もいよ〳〵二十日を通り越した年末の慌しさは今後日と共に加速度を以てその甚だしきを加へ道行く人の足どりもおのづと宙を飛ぶ様になつて來るがその裏面には極めて多事多端なりし昭和三年を忘れんとする

忘年會や 希望に輝く御大禮直後の昭和四年を迎へんとする新年宴會など大に飮めや歌への景氣のいゝところか勸め人といはず町家といはずそろ〳〵計畫されはじ藝妓の撰擇やら日取の決定やら年若の幹事役などが有頂天になつてゐる向も少くない、併しながら

石城地方 の景氣を支配する炭鑛が依然炭況不振の状態に置かれてあるのでこの方面は各課各係に別れ炭鑛の合宿や倶樂部邊りで簡單に行はれ以前の様に勇敢に平湯本方面へ進出すると言つた處が少いであらうから宴會數の少減は時節柄蓋し免れ難き當然の歸結と見ねばならず尚

炭礦以外 の處でも時節柄忘年會を見合せ新年會だけで濟まそうとする向が多いらしくこんなわけでその間際の申込みを樂しみ乍らも例年この季節を當込む平町邊の一流料理店等は玆許些か悲觀の体である

最高十九割
去年卅三割を貰つた 平税務署員述懷

昨年末三十三割といふ豪い賞與率で不景氣方面をあつといはせた税務署の年末賞與に十九日それぞれ監督局から通知されたが今年は過半來冗員整理その他この方面にも今迄にない不景氣風が吹いた年だけに平税務署員の割合を見ると最高が細目庶務課長の十八割七分で平均十六割といふ處去年三十割以上も貰つた事などけろりと忘れて營林省はよかつたそうですなあと暖爐を圍んで署長の出勤前を一同の述懷とある

心寶院等善金齋居士 昨日葬送之際は御會葬被下且つ御叮嚀なる御香奠を賜り難有奉深謝候實は早速拜趨御禮可申述の處取込中に付乍略儀以紙上御厚禮迄如斯御座候

昭和三年十二月廿一日

平町長橋町三五 川崎文治

外親戚一同